

コロナ禍でのPTA活動を見直しスリム化へ

～委員の負担軽減～

夢の実現

藤沢総合の教育方針

未来を拓く

生徒一人ひとりの資質と教養を高め、社会の形成者として自覚を有する人間の育成

自立した個

広い視野をもって自ら
判断し責任ある行動をとる

総合的な知

知識や技能を活用し
新たな可能性を拓く

共生する心

個々の人格と個性を
尊重し、共に生きる

県立藤沢総合高等学校

平成16年「藤沢北高等学校」
「長後高等学校」が統合され
湘南地区初の総合学科の
高校として設立された。
単位制 現在生徒数816名

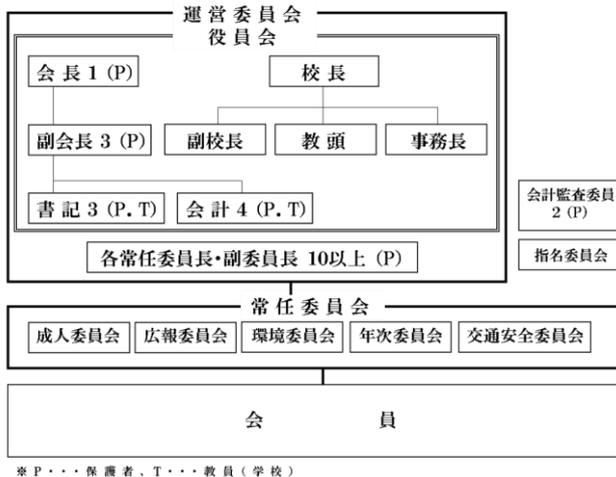
テーマ設定の理由

コロナ禍で、これまで行われてきた会議や研修会が中止、或いは書面、オンラインでの開催となり、活動が制限される中で藤沢総合高校PTAではこの機会に今出来ることを検討し、PTAの活動自体を見直してみてもどうか？という意見が出されました。活動を見直したいと思ったことの要因として

- ①現在は働いている保護者が殆どで、また介護や子育て等でPTA活動に関わるのは難しいという意見も多く委員を勧誘することが非常に困難になっている。
- ②会議やイベント、研修が平日に予定されていることが多く、平日勤務の保護者も多い中で、委員になった保護者の負担がとても大きい。
- ③一定の保護者に負担がかかる現状で、少しでもその負担を軽くし、勧誘をしやすくする為に本当に必要な作業なのかを見直していき、PTAの仕事を減らしたい。

以上のことから本部では今の時代に合ったPTAに少しずつ形を変えていこうと話し合い、スリム化を進めることとしました。

藤沢総合高等学校PTA組織図



本部役員 常任委員会

環 境
交 通 安 全
広 報
成 人
年 次

スリム化に向けて

本部の役割⇒以前は外部の研修大会や地域連携会への参加、学校の行事の協力等で精一杯だった活動を、学校と各委員会を結ぶパイプ役・取りまとめ役となり各委員会が抱えている問題や疑問点を一緒に考えスリム化の一環とする。

取り組みとして⇒

- ①委員の負担を減らす為、各委員会の事業計画の内容を確認。改善できる所を一緒に考える。
- ②本部にて各行事に参加するボランティアを募集。
- ③LINEにて各委員会へアンケートの実施。

アンケート内容

- 1.) 現在の委員数と実働人数について。
- 2.) 活動内容を見直して貰い、本当に必要かどうか？なくても困らないような仕事はないか？

(アンケート結果)

委員会名	委員数	実働人数
環 境	36名	定例会3回の参加率⇒75% (水やり当番→週に2人ペアで1人2回程度)
成 人	28名	定例会3回の参加率⇒57%
広 報	22名	定例会4回の参加率⇒68% 体育祭・翡翠祭⇒81%
交 通	22名	定例会3回の参加率⇒50%
年 次	33名	定例会3回の参加率⇒55% 体育祭⇒66%・翡翠祭⇒51%



各委員会のスリム化への取り組み

(※スリム化の一環として委員会発表部分は**自動音声による発表**となっております)

環境



年10回の定例会
⇒ 7回へ
多年草も加えて
花を長持ち。

交通安全



定例会 ⇒
グループLINEで回数削減。
セーフティカードの配付。

広報



広報誌発行 ⇒
取材回数を減らす工夫。
LINEやGoogleの利用で
写真等の情報共有。

成人



LINEを活用 ⇒
必要な情報は随時閲覧・共有。
イベントを二つにしばり
しっかりとした安全対策で実施。

年次



年次懇談会 ⇒
密を避けオンライン開催。
安全対策をしっかり
行い体育祭の給水
活動は現状維持。



本部



藤総ボランティアの導入 ⇒
オンラインによる募集。
役員の負担軽減。
PTA一般会員が気軽に
行事参加できる場を提供。

出来る人が 出来るときに 出来ることをやる！

～ 今後の課題として～

**役員の負担軽減と言っても安易にカット出来ない活動もある
生徒へのバックアップがPTAの最も大事な仕事であることを忘れない**

手探りの中で進めてきて、現在進行形のスリム化ですが、やはりこれまでの前例や慣習を無くす
新しくするという事は、同じことを続けていくことよりも大変で、求められる決断力がとても重く感じます。

しかし、一度とりあえずやってみて、上手くいかなかったらまた変えれば良い、という考え方で
またそれを同じく支持してくれる役員、先生方と共に少しずつではありますが、個人負担を軽くしてい
き気負わなくていい気軽に参加出来るPTA活動を目指していきたいと思ひます。